

震災で壊れた町並みを花いっぱいにする地域住民活動（新潟県長岡市） ～きらり☆スマイル～

1 調査対象と取組の概要

ヒアリング先	きらり☆スマイル（新潟県長岡市）
取組のポイント	<ul style="list-style-type: none">➤ 平成 16 年の新潟県中越地震で壊れた町並みの再生に向けて、商店街関係者が自発的に議論を始め、東川口震災復興委員会の「町並み整備班」活動から発展した地域活動団体（きらり☆スマイル）として活動を展開している。代表者は地元商店街の関係者で、震災前から、PTA 活動や地域の様々な活動においてリーダー的な存在として活躍している女性である。➤ きらり☆スマイルは、震災後、家屋の倒壊や転出者の増加により空き地が増えて寂れた東川口地区の復興に向けて、空き地に花を植え、町並みをきれいにする取組を行っている。➤ 平成 20 年からは、ミニ公園「にこぱ〜く」を整備し、花で彩る美しい町並み景観の形成と、子どもや高齢者を始めとして地域住民が気軽に集い、笑顔で触れ合える場づくりに取り組む。➤ 中学生からお年寄りまで地元住民の参加を募って活動し、多世代の交流を進めている。
ヒアリング日時	平成 25 年 1 月 9 日

2 活動・事業のきっかけと準備

震災直後の自発的な集まりから

- ✓ 新潟県長岡市川口地区は、平成 16 年 10 月に新潟県中越地震が発生した当時は長岡市との合併前で「川口町」と呼ばれており、約 5,000 人が居住する町であった。新潟県中越地震では、川口町の被害も大きかった。商店街などの商店や住宅等も壊れ、大変であった。
- ✓ 震災直後の平成 16 年 12 月、東川口地区のまちづくりをテーマに商店街の 8 人が集まり、震災で壊れてしまった町をどのように再生していこうかという話し合いを始めた。この中には、きらり☆スマイルの代表である山森氏を含め、2 人の女性が参加した。

震災復興委員会の「町並み整備班」の発足

- ✓ 平成 17 年 2 月、町が震災復興対策本部を設置し、震災復興計画の策定に着手したことに呼応し、東川口地区では、町会役員、商店街、公民館関係者などで構成する「東川

口震災復興委員会」が発足し、地区を挙げて震災復興に向けた取組が開始された。その前の年の12月に始まっていた商店街関係者の自発的な活動は、この委員会での議論に発展的に吸収されていくこととなった。

- ✓ 平成17年10月に策定された「川口町震災復興計画」の中で、東川口地区は復興重点プロジェクトの一つ「活気あるタウンコアゾーンの形成」に位置付けられ、行政と住民が協働してハード・ソフト両面にわたる復興を目指すことになった。
- ✓ 平成17年11月には、「東川口震災復興委員会」に4つの専門部会が設置された。その後、「東川口地区震災復興ビジョン」が定められ、地域の将来の方向性が定まってきた中で、住民主体の実践活動を活性化させる目的から平成19年9月に専門部会が再編され、新たに「キラリまちづくり部会」が発足した。その中に、住民主体の検討グループとして、テーマ別に「地域再発見班」「町並み整備班」「経済活性化班」「視察研修班」が立ち上げられ、それぞれ実践活動を展開していくこととなった。このうち、「町並み整備班」が「きらり☆スマイル」の前身となるものであり、現在も代表を務める山森氏はこの班の班長に任命された。
- ✓ 山森氏が「町並み整備班」の班長に就いたのは、震災直後からの自発的な活動を踏まえてのものでもあるが、山森氏が地域に根づく地元スーパーの娘として、地域の様々な関係者とつながりがあったことも大きかった。山森氏は震災前から、子どものPTA活動や地元の様々な活動に積極的に参加し、リーダー的な役割を果たす中で、保護者や地域の人々の関係づくりの潤滑油となり、地元の盛り上げ役となってきた。「東川口震災復興委員会」の委員長（元助役）など町の職員も、山森氏が地域でつながりを持つ力に期待して、「町並み整備班」の班長に推薦した。

3 活動・事業の内容

「町並み整備班」の活動

- ✓ 「町並み整備班」は10名で活動を開始した。メンバーは、山森氏の子育て等を通じた友人を中心に女性が6名、男性が4名であった。男性のうち2名は川口支所の職員でもあり、行政との調整はこれらのメンバーを通じて行いやすかった。男性に参画してもらったのは、行政との調整役ということに加え、活動の中で重機を使用するなど、力仕事が必要な場面での活躍を期待したこともある。また、メンバーが女性だけだと内部で軋轢が生じる懸念もあるところ、男性も入ることでメンバーの間の関係性が良くなるという効果もあった。

ミニ公園「にこぱ〜く」の整備

- ✓ 「町並み整備班」では、震災で家屋が壊れ転出者が増えたことで空き地が増え寂れた東川口地区の復興に向けて、空き地に花を植え、町並みをきれいにする取組を行っている。平成20年からは、花で彩る美しい町並み景観の形成と、子どもや高齢者など地域住民が気軽に集い笑顔で触れ合える広場を作るため、ミニ公園「にこぱ〜く」を整

備している。

- ✓ 4つの活動班のうち、「経済活性班」は、震災により生じた町の中心に位置する空き地に「よってげ亭」という市民が憩えるふれあい市を開いた。市は月1回、第3日曜日に開催され、4月～11月の開催日は、「よってげ亭」前が歩行者天国になる。ふれあい市はどんな悪天候でも必ず実施し、開始当初はメディアの取材も多く、地域の活性化に貢献してきた。「町並み整備班」は、その向かいにあった古くからの空き地を「にこぱ〜く」として整備することとし、チューリップを植え始めた。また、パーゴラやベンチなども設置して、地域の人々が気軽に集える場となるようにしている。
- ✓ 「にこぱ〜く」を整備している空き地は3軒の地主から無償提供されており、広さは合わせて100坪程度である。荒地の整備は蚊などの排除につながり、近隣からの苦情を防止する対策ともなっている。

地域住民も参加しての花苗定植の様子



「町並み整備班」を発展的に解消し「きらり☆スマイル」へ

- ✓ 平成22年3月に東川口震災復興委員会が発展的に解消されることになり、「町並み整備班」から「きらり☆スマイル」に改称し、単独の団体として活動を継続することになった。災害からの復興にとどまらず、もっと未来を見ながら、いつまでもきらりと輝いていけるイメージで、団体の名称を決めた。
- ✓ メンバーは、「町並み整備班」の発足時から変わらず活動を続けている。活動方針の検討や報告は定期的に会議を開いて行うが、それぞれが仕事などを持っているため、夜に会議を開催している。
- ✓ 平成22年度から川口橋橋詰の花壇（東川口花ひろば）の植栽も始まり、平成24年度はシンボルロード（駅前通り歩道）の花の植栽活動にも取り組んでいる。まち全体に花いっぱい活動が広がるよう、地域住民への呼びかけや仲間づくりを図りつつ取り組んでいる。

手作りイベント「キャンドルフラワー」の開催

- ✓ 川口地域では平成 20 年以降、毎年川口運動公園で震災被害者の追悼イベントを実施してきたが、会場が山の上なので高齢者や子どもがいる家庭など、皆が気軽に参加することが難しいため、「きらり☆スマイル」は平成 22 年から、「にこば〜く」で手作りのイベント「キャンドルフラワー」を開催している。
- ✓ グラスに手作りのろうそくを置き、それを花に見立てて並べるとともに、「にこば〜く」でとれた芋で作ったスイートポテトを食べたり、これまでの活動ビデオを見てもらいながら、来訪者にくつろいでもらうというイベントで、これまでに 3 回開催した。

キャンドルフラワーイベントの様子



地域住民や中学生、その他様々な方々の協力

- ✓ 「きらり☆スマイル」では、中学生や高齢者などボランティアの協力も得ながら土づくりや植栽活動など、様々なイベントの開催に取り組んできた。自治会の回覧板や手書きのチラシ配布などを通じて、様々な人に活動に協力してもらうよう呼びかけている。
- ✓ 平成 12 年頃から、「花で町を埋め尽くしたい」というコンセプトでボランティアで花の苗を作ってくれる住民がおり、その方とも連携して活動している。

4 活動・事業の成果と課題

多世代交流の促進

- ✓ 活動を通じて地域の中学生から年配の方まで、多世代交流を行っている。「きらり☆スマイル」のメンバーと地域住民、また地域住民同士の交流も深まっている。活動の後にお茶のみを実施し、学校の様子など子どもたちの話を聞いたり、彼らが将来地域に戻ってくるように声かけも行っている。その中で、様々な意見も出てきて、活動に生かすこともできている。

活動費の確保に苦労

- ✓ 課題は活動費の確保である。最初の 3 年間は県の復興基金で活動ができたが、その後

は、補助金を申請したりイベントで参加者から協力金を集めるなど、工夫しながら集めている。

- ✓ また、にこば一くの敷地内は掘り起こすと大量の石があり、大型の石は人力での除去は難しいことから、重機を使って花壇の石の撤去と土の入れ替えをすることもあり、その際に必要な経費については市の助成事業を申請し、活用している。
- ✓ 住民にとっては、補助金の情報や申請方法などはわかりにくいいため、「きらり☆スマイル」のメンバーでもある支所職員など、行政関係者の協力を得て申請している。

メンバーの負担と広がり課題

- ✓ 活動メンバーが固定化し、メンバーの負担が大きいことも課題となっている。当初は地域住民を巻き込みながら花壇を増やす予定だったが、一つの花壇を立てるのが思いのほか大変で、新しく手がけられてはいない。
- ✓ 継続的でない形で活動を手伝ってくれる人はいるが、メンバーとしての活動が非常に活発なため、いざ「メンバーに入りませんか」と誘うと躊躇されることが多い。